

●次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

和泉式部、保昌が妻にて丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌よみにとられてよみけるを、定頼の中納言、たはぶれに小式部内侍に、①「丹後へつかはしける人は参りにたりや。」と言ひ入れて、局の前を過ぎられけるを、小式部内侍、御簾より②なかば出でて、直衣の③袖をひかへて、

④大江山いくの道の遠ければまだふみもみず天橋立

とよみかけけり。思はずにあさましくて、「こはいかに。」とばかり言ひて、⑤返しにも及ばず、袖をひきはなちて逃げられにけり。小式部、これより歌よみの世おぼえ出で来にけり。

問一 傍線部①について、次の問いに答えよ。

(1) この言葉は、どういう気持ちで言ったものか。適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 冗談    イ ひがんで悪く推測すること    ウ からかうこと    エ 遠まわしに意地悪く弱点などをつくこと

(2) 「丹後へつかはしける」とあるが、なんのために丹後へ使いをやったというのか。わかりやすく説明せよ。

(3) 「参りにたりや」とあるが、どういう意味か。適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア もう出かけましたか    イ もう帰って来ましたか    ウ もう向こうに着きましたか

エ もう退出しましたか

問二 傍線部②・③を、現代語訳せよ。

問三 傍線部④の歌について、次の問いに答えよ。

(1) 「いくの」「ふみ」は掛詞である。何と何との掛詞か。それぞれ漢字を用いて説明せよ。

(2) この歌の趣旨を一六字以内で答えよ。

問四 傍線部⑤に「返しにも及ばず、袖をひきはなちて逃げられにけり。」とあるが、定頼がそうしたのはなぜか。その理由を説明せよ。

問五 この話の眼目は、小式部内侍のどういう点にあるか。適当なものを次の中から選び、記号で答えよ。

ア 歌道に対する執着心    イ ユーモアに潜む鋭い諷刺

ウ 素朴純情な性格    エ その場にすばやく適応した才能

〈解答と配点〉

【一】問一（1）ウ（2）歌合で発表する歌を、母の和泉式部に代作（助言）してもらうため。（3）イ 問二 ②半分身を出して ③袖を引きとどめて 問三 （1）「行く」と「生野」・「踏み」と「文」（2）母からの手紙もまだ見ていません。「別解」

母に歌の代作など頼んでいません。（一六字） 問四 これほどの歌を即座により出すとは予期していなかったから。 問五 エ